

INPEX

株式会社INPEX
(証券コード：1605)

2025年3月20日

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- ・ 為替レートの変動
- ・ 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。



イクシスLNG
沖合生産・貯油出荷施設 (FPSO)

INPEXの概要

石油・天然ガス開発 & クリーンエネルギー

日本の年間
エネルギー消費量の

約**1割**

に相当する生産量

事業活動の

9割が海外

外国人従業員比率*

(2024年12月末時点)

42.7%

時価総額
(2025年3月10日時点)

約**2.3兆円**

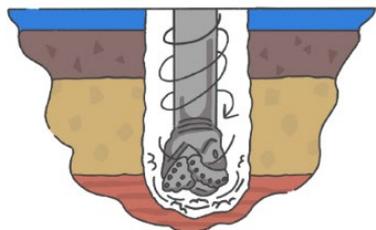
総還元性向
(2024年12月期)

55%

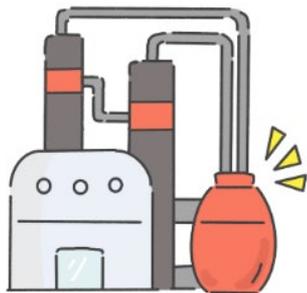
探鉱前営業CF
(2024年12月期)

約**9千億円**

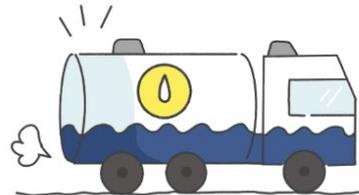
* 子会社を含むINPEXグループの従業員に占める外国籍の従業員の割合



開発・生産



精製



輸送



販売

上流

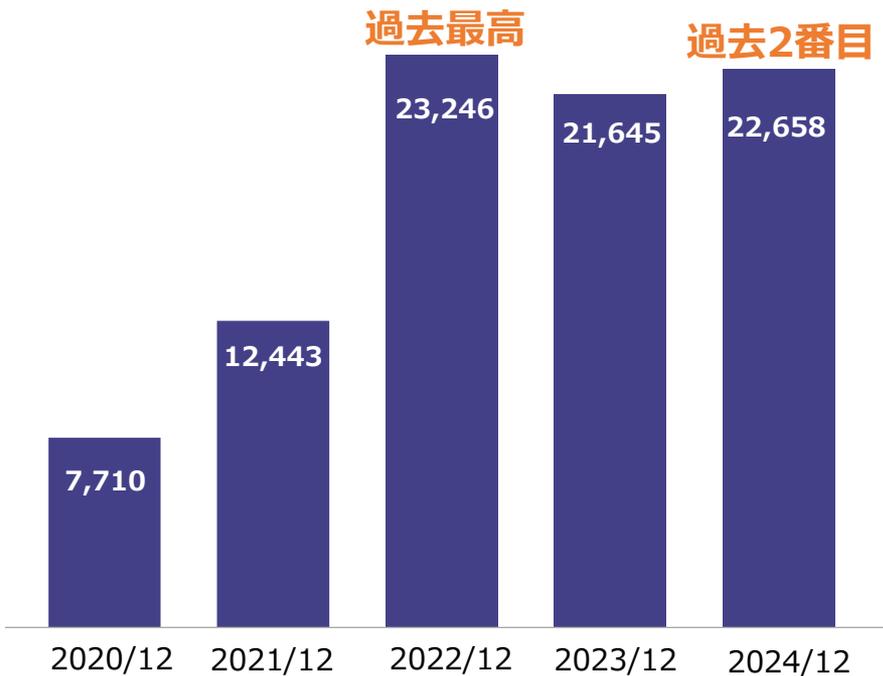
中・下流

INPEX

ENEOS、出光興産、コスモ石油 等

2024年度は過去2番目の好業績

売上収益* (億円)



親会社の所有者に帰属する当期利益* (億円)

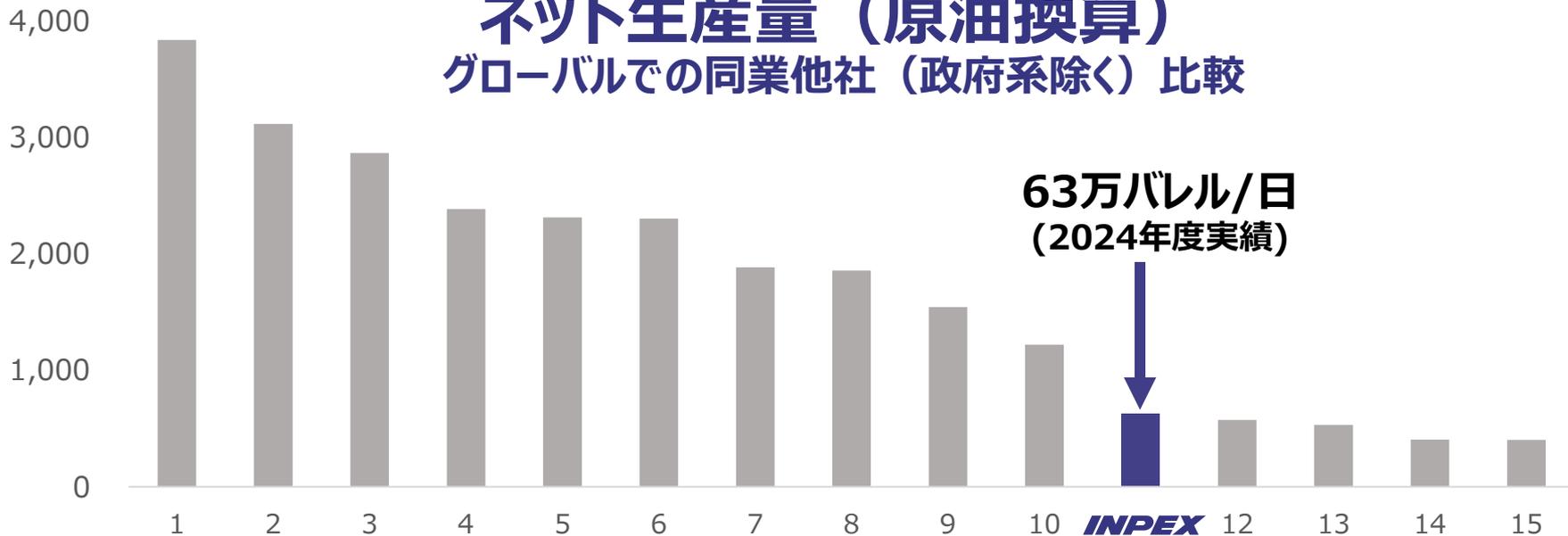


当社は**日本最大**の
石油・天然ガス開発企業

ネット生産量はグローバル（政府系除く）で
世界11位

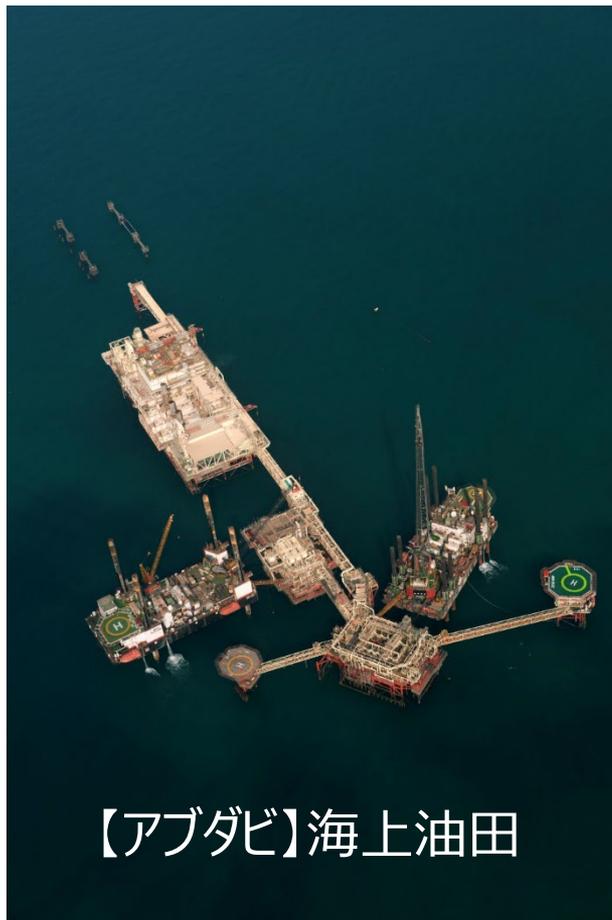
(千バレル/日)

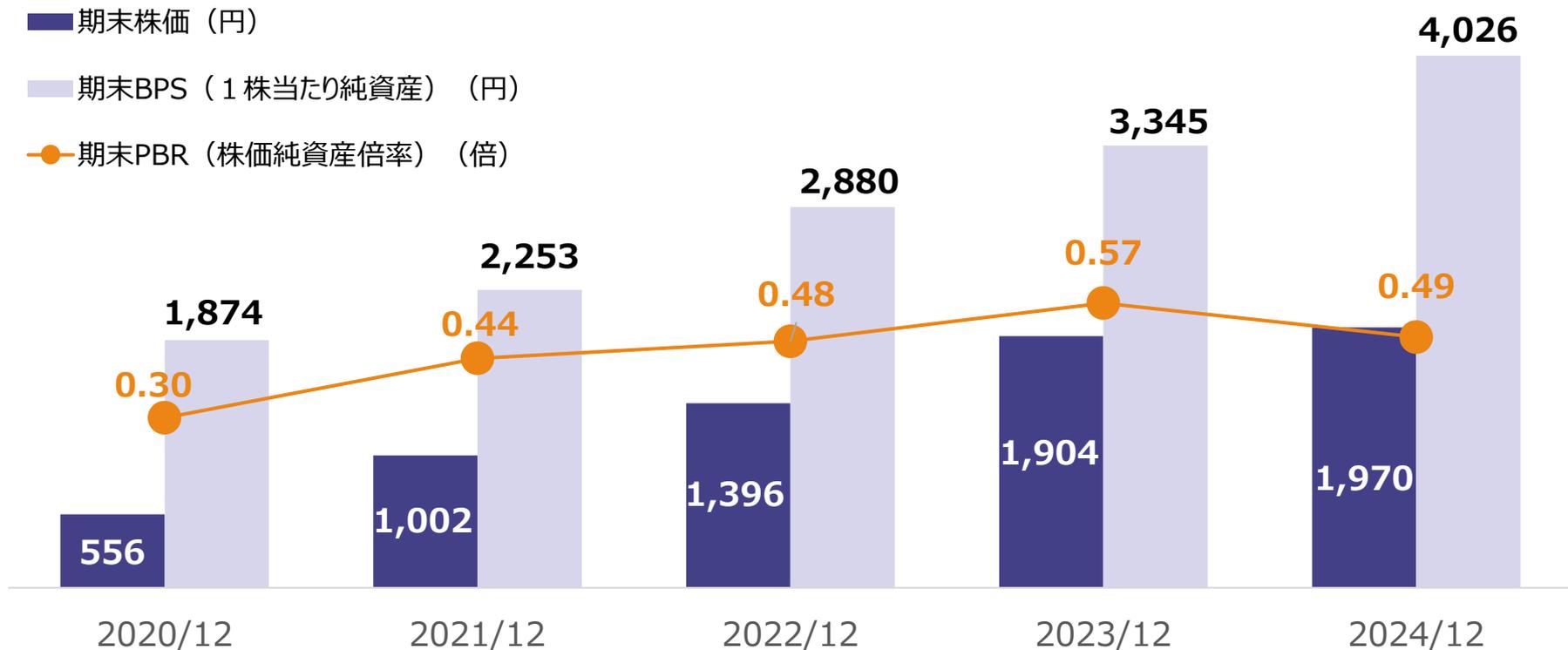
ネット生産量（原油換算）
グローバルでの同業他社（政府系除く）比較



注:

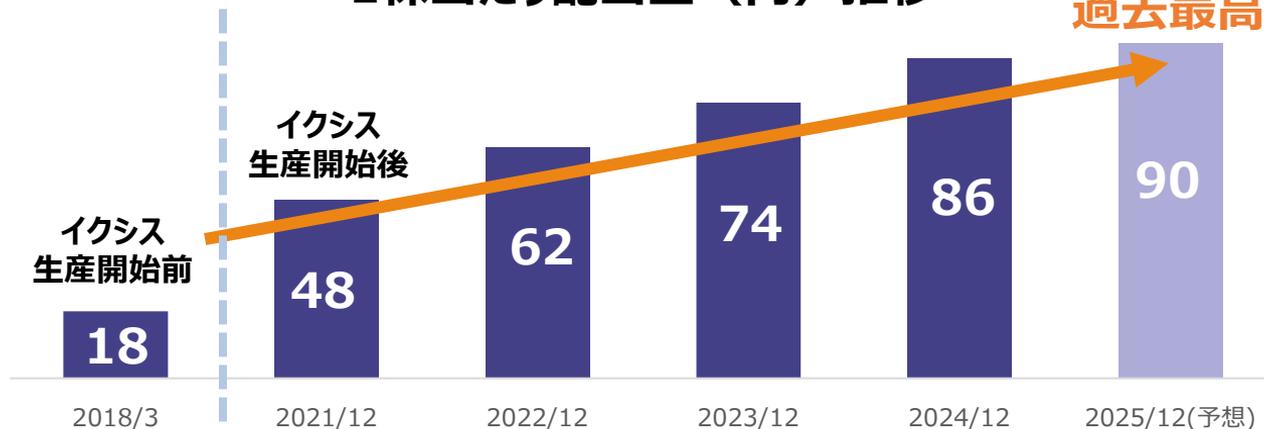
1.右記会社の2023年度12月期公開決算情報に基づく(アルファベット順): APA, BP, Chevron, Conoco Phillips, Eni, Equinor, Exxon Mobil, Lukoil, Marathon Oil. Occidental Petroleum, Repsol, Shell, TotalEnergies, Woodside Energy.
2.各社連結ベースの数値





1株当たり配当金（円）推移

過去最高



1株当たり配当金は
2018年度比で
5倍まで増加

自己株式取得額（億円）の推移

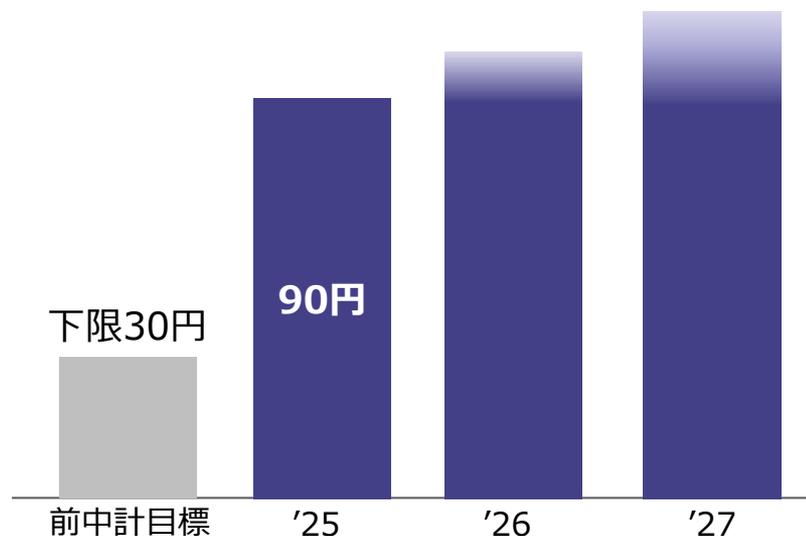
過去最高



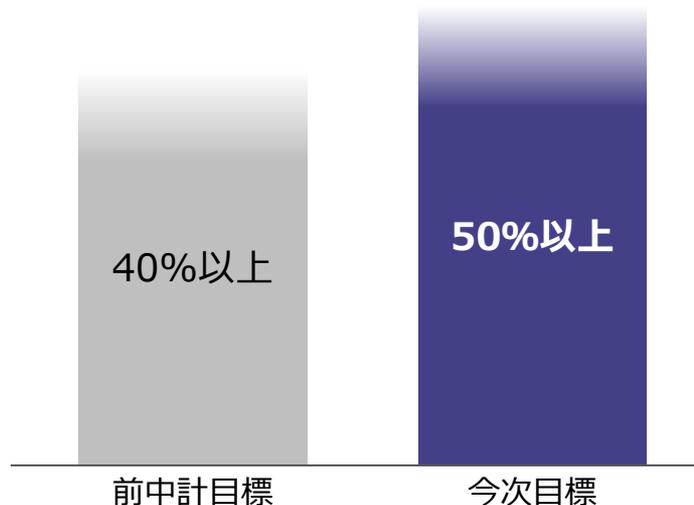
4期連続で
自己株式取得を実施

株主還元を強化していきます（2025-2027 中期経営計画より）

1株当たり年間90円を起点とする
累進配当¹を実施



累進配当をベースに機動的に
自己株式を取得
総還元性向² 50%以上を目指す



1. 前期の1株当たり年間配当金に対して維持または増配
2. $\text{配当支払額} + \text{自己株式取得予定額} \div \text{当期利益}$

INPEXはこれから どうやって成長するのか？

獲得したキャッシュの
一部を投資

石油・天然ガス事業

- エナジーセキュリティ
- ガス中心の時代へ

低炭素事業

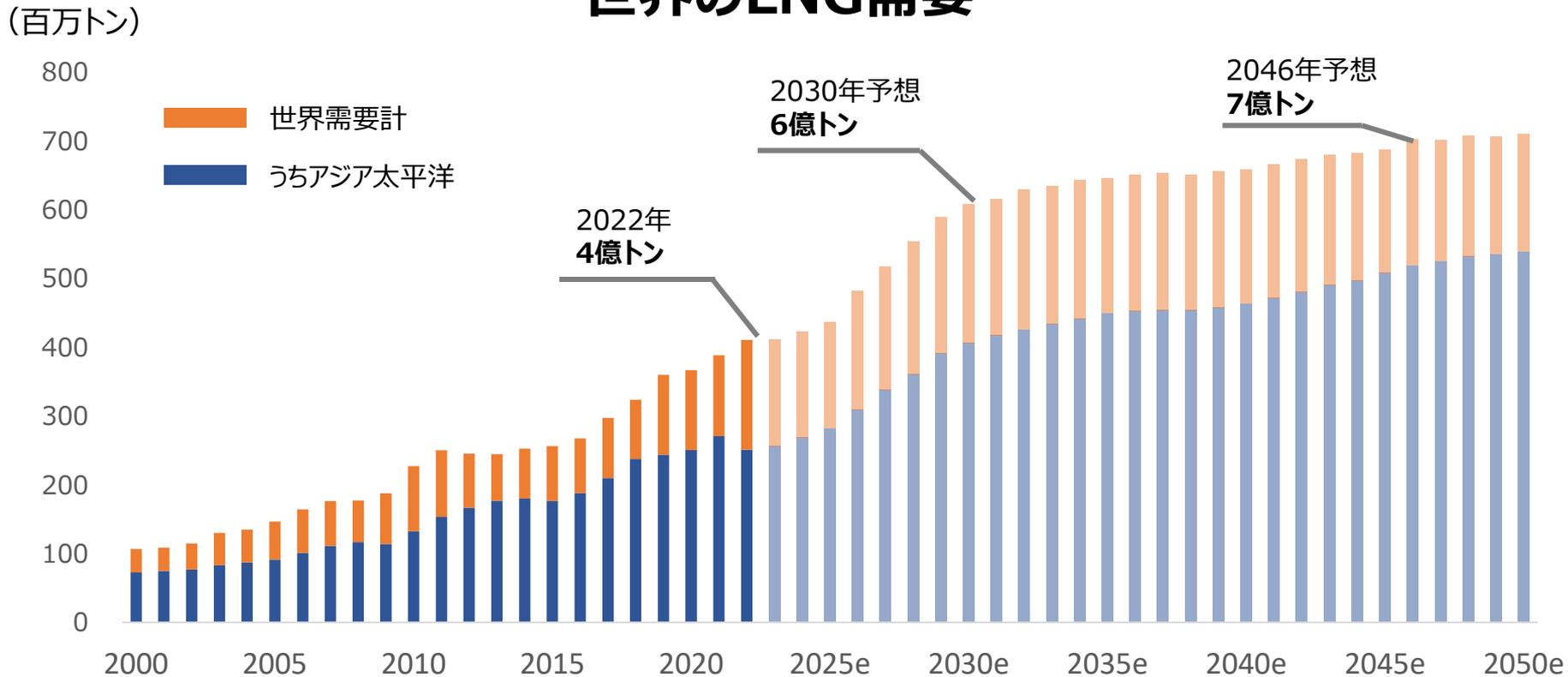
- CCS
- 水素
- 再エネ 等

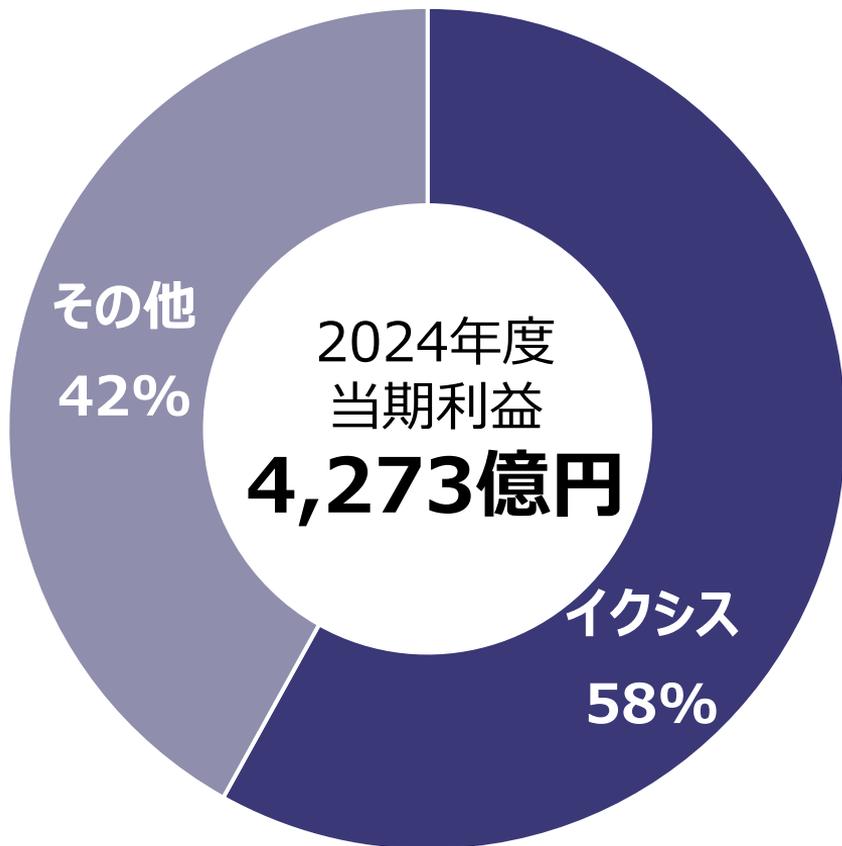
エネルギーの
低炭素化

INPEXはこれからどうやって成長するのか？

グローバルでのLNG需要は今後アジアが中心となる

世界のLNG需要





イクシスのLNG生産量は
年産930万トン

利益貢献額は当社利益の
6割程度を占める

安定生産継続・クリーン化



設備拡張



オーストラリアにおける
新たな**エネルギー政策への提言**

オーストラリア/アルバニー首相との意見交換



地域貢献への注力

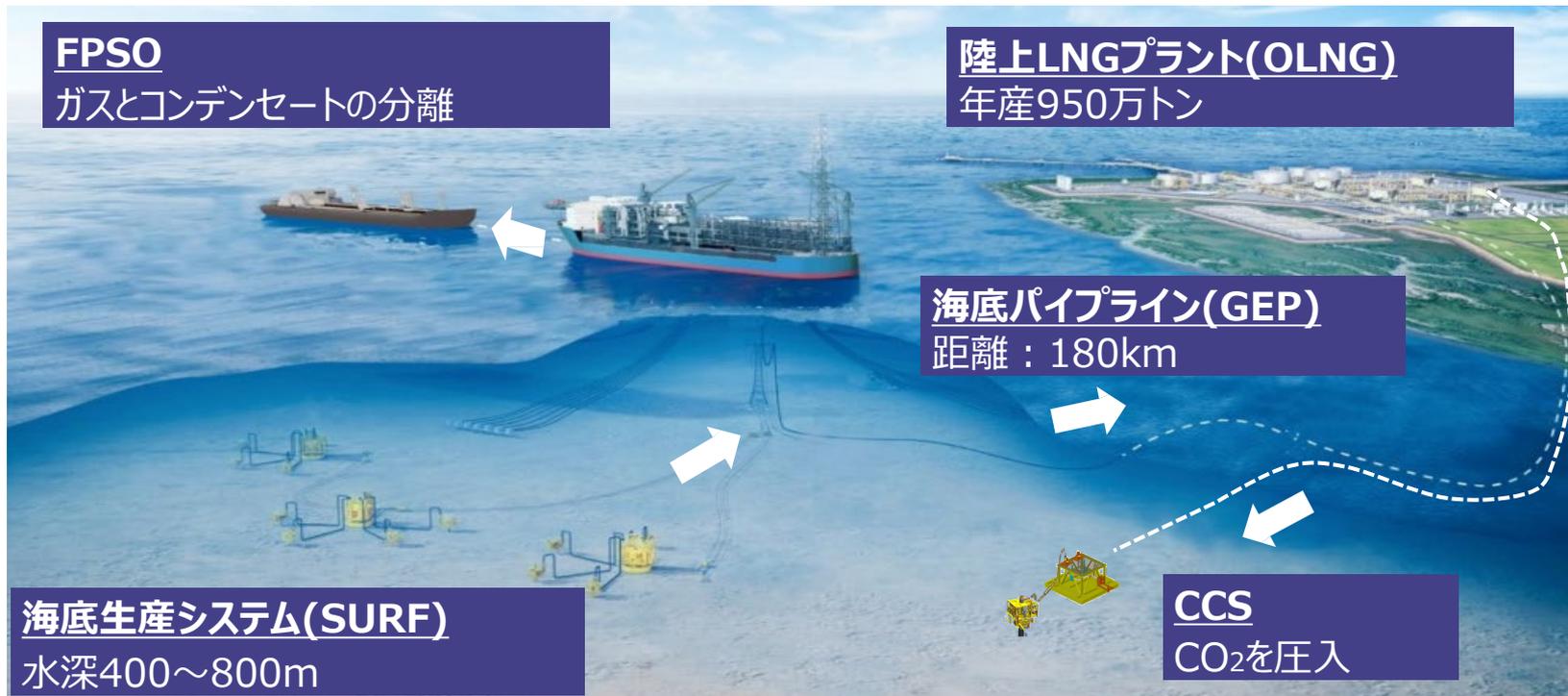
旗掲揚式@NAIDOC* Weekセレモニー



* National Aboriginal and Islander Day Observance Committee

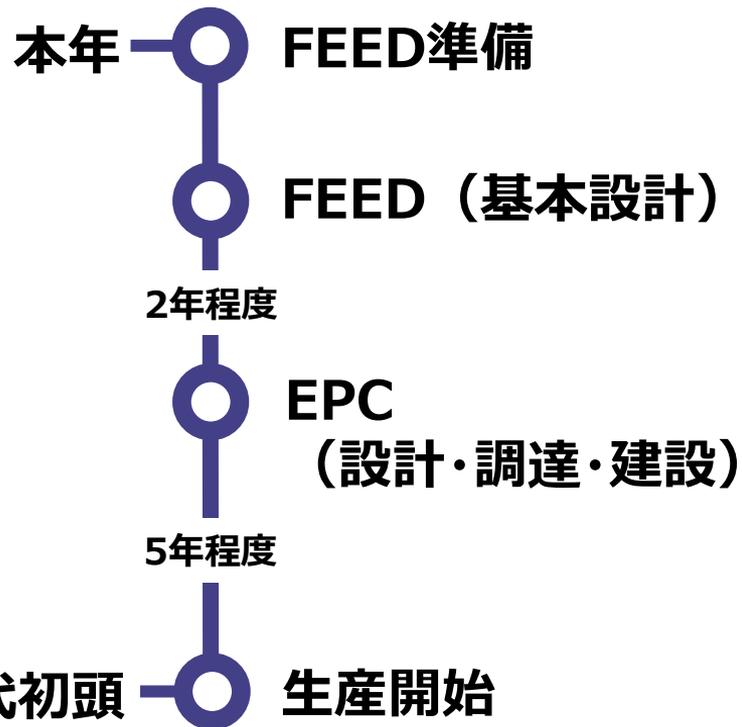
LNG生産量はイクシスと同程度の
年産950万トン

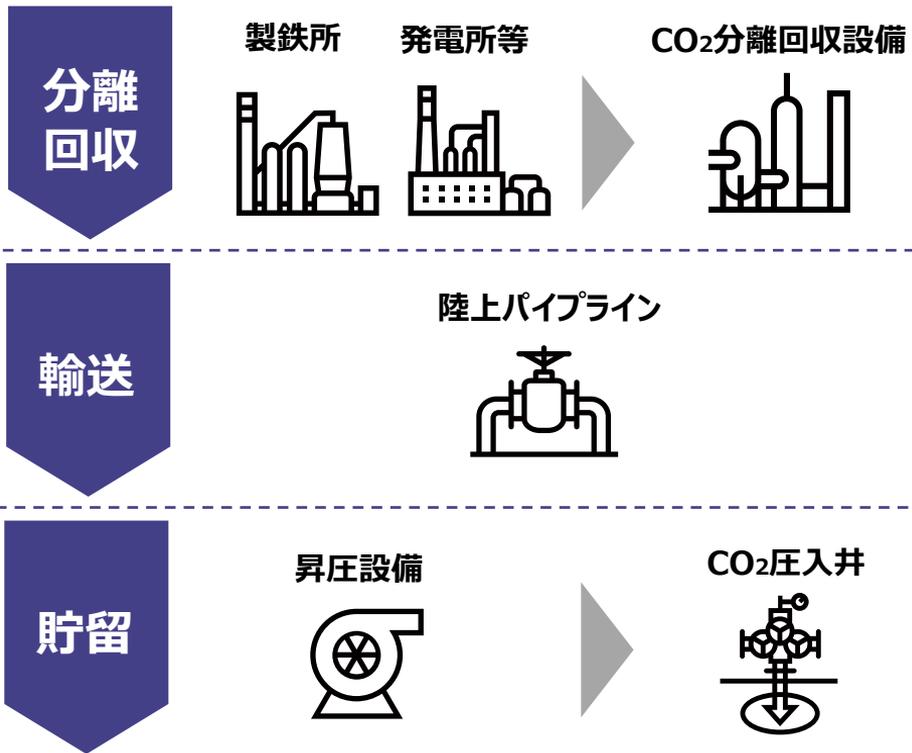
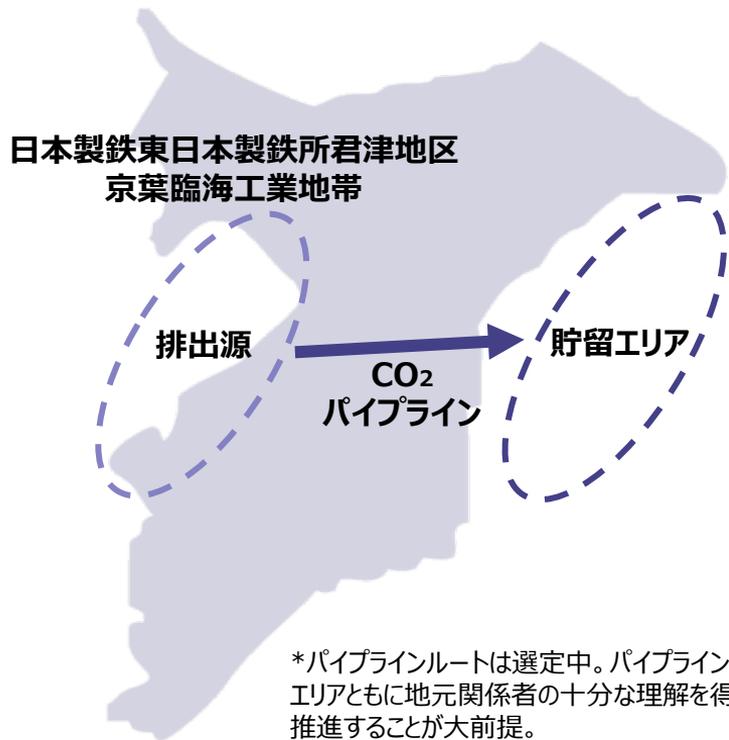
開発コンセプトもイクシスに類似しており
当社の知見を活かせる



高い経済性（IRR10%台半ば）を目指す

海上G&Gサーベイ







2025年2月時点

太陽光発電・陸上風力・蓄電池を最適に組み合わせ 電力事業の価値最大化に挑む



INPEX VISION 2035

2035年に向けてINPEXが実現していくこと

成長の源泉である既存プロジェクトを一層強化します

安全・安定操業を最優先し、エネルギーの安定供給と同時に、株主還元・成長投資の原資を確保します。

将来の飛躍を現実のものにしていきます

「現実的な移行期の燃料」としての天然ガスの供給力強化を軸に、相乗効果/補完効果が期待できる低炭素分野や電力関連の新たな取組みを強化し、収益基盤を拡大すると同時に2050年ネットゼロに向けて前進します。

コアエリアを中心に事業基盤を拡大し、業績の成長にあわせて株主還元を拡大していきます。

成長軸 1 天然ガス/LNG事業の拡大

イクシスLNGプロジェクトでは、安全・安定操業を継続した上で、液化能力拡張を目指します。
アバディLNGプロジェクトでは、30年代初頭の生産開始を目標に中計期間中のFID¹を目指します。
LNGトレーディング機能を強化し、より柔軟なLNG供給を実現します。
早期マネタイズが可能な有望地域で探鉱を継続します。

成長軸 2 CCS/水素をコアとした 低炭素化ソリューションの提供

これまでに培った組織能力・既存技術を活かし、エネルギーの低炭素化に取り組めます。
当社が参画する天然ガス/LNGプロジェクトとCCSの組み合わせによるGHG排出抑制に加え、第三者向けのGHG削減ソリューションの提供やグリーン水素の供給を推進します。

成長軸 3 INPEX「ならでは」の強みを活かした エネルギー・資源分野での新たな挑戦

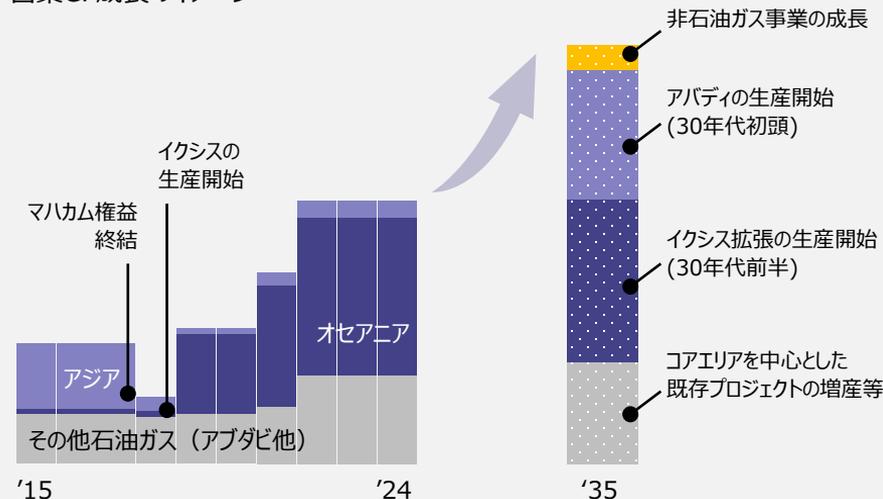
総合エネルギー開発企業として、電力関連分野での事業展開を目指します。
再エネに蓄電池やクリーンガス火力発電²といった調整電源を組み合わせ、クリーンかつ高付加価値な電力供給体制の発展に貢献します。
電力供給システムを支えるために必要となる、石油・天然ガス以外の地下資源回収にも挑戦します。

1. 最終投資決定（Final Investment Decision）のこと
2. CCSと組み合わせることやグリーン水素と混焼/専焼させることでGHGの排出を削減することを目指す

2035年にありたい姿：60-60を目指して

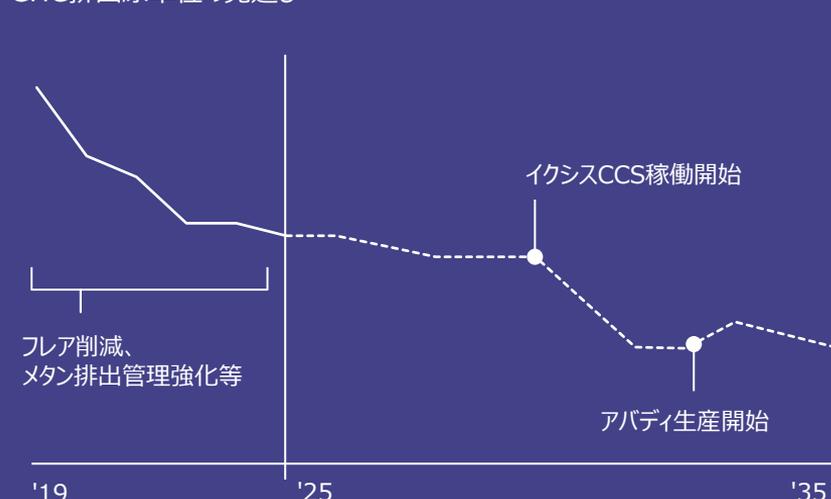
事業規模を60%拡大します

INPEXは、イクシスの生産開始やアバディでの事業拡大を通じて過去10年間で大きく成長を遂げました。次の10年も、アバディやイクシス拡張といった仕掛中案件を収益性を確保した上で実現し、成長を続けます。

営業CF成長のイメージ¹GHG排出原単位を60%削減します²

INPEXは、生産プロセスの見直し等の努力を積み上げることでGHG排出原単位を確実に削減してきました。次の10年は、CCSを通じてインパクトのある削減を実現すると同時に、社会全体の低炭素化へ貢献していきます³。

GHG排出原単位の見通し



1. 過去・将来ともに外部事業環境を一定とした場合の概算値（2025年以降はコスト・売上ともに2.3%/年のインフレーションを考慮）
2. 2019年比の削減目標（Scope 1+2。現在の経済環境と合理的な予測を反映したものであり、技術進展、経済合理性、各国・地域の施策実現等の事業環境を前提としている）
3. 2019年時点で操業していたプロジェクトについては絶対量ベースでの排出量削減を目指す。また、サプライチェーン上のステークホルダーと協働しScope 3削減の取組みも並行して進める。加えてCCS、水素、再エネ事業等を通じて、社会に対し820万トン/年程度の削減貢献（製品・サービスを通じて当社が社会のGHG排出削減に貢献した量）創出を目指す

'25~'27中計

成長と株主還元のバランスの取れた資金配分を実行します

過去3年間で有利子負債の削減が進んだことから、2025~27年の3年間では、成長投資と株主還元を一層強化していきます。成長投資においては、株主価値拡大に貢献する案件に絞り込んだ上で投資します。



株主還元を更に強化していきます

- 配当による安定的な株主還元をベースとしつつ、状況に応じ機動的に自己株式の取得も実施

投資規律を遵守した上で積極的な成長投資を行います

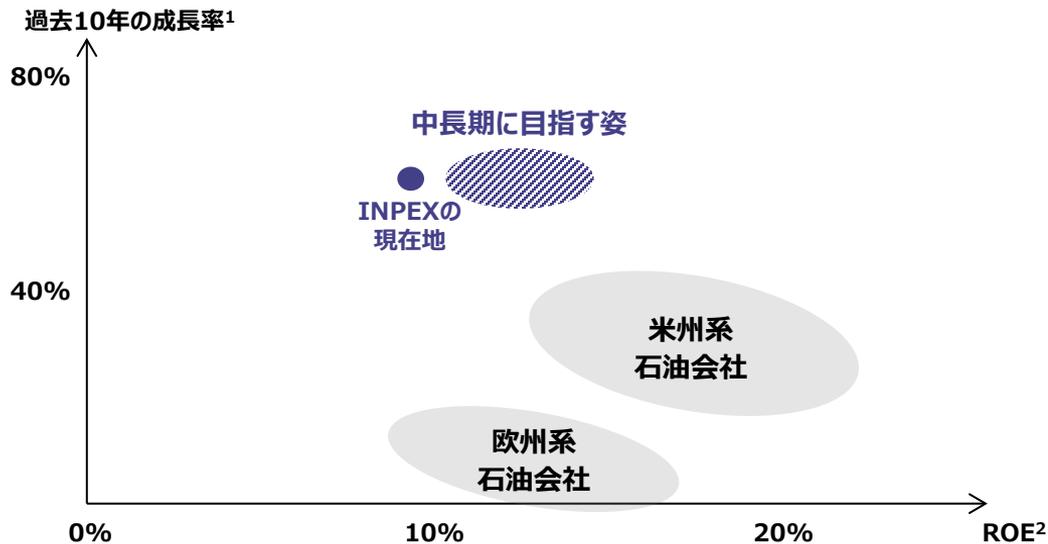
- 天然ガス/LNG分野を中心に、インパクトのある成長を追求
- 投資CFの2割程度を低炭素分野と電力関連分野に投資することを想定するものの、投資に移行する段階でプロジェクトの採算性を厳正に評価
- スピード感のある成長を実現するための手段として、アセット買収やM&Aを通じた成長機会も積極的に追求。その際、当社が保有する操業施設や組織能力とシナジーが見込まれることを精査した上で実行

現時点での
有力な投資案件

- ✓ 既存プロジェクトの維持・拡大：11,000億円程度
- ✓ 天然ガス/LNG事業のグリーンなかたちでの拡大²：5,000億円程度
- ✓ CCS/水素や電力事業およびその周辺分野：2,000億円程度
(その他、10,000億円~の潜在的投資案件が存在)

1. 油価\$70/bbl、為替135円/USDの場合の概算値
2. LNGプロジェクトと一体のCCS関連投資を含む

資本効率を着実に改善させます



- 過去10年で他の石油・天然ガス企業を大幅に上回る成長¹を実現しましたが、バランスシートの拡大に見合う十分な収益増を実現できておらず資本効率が低くなっていることは否定できません。
- **株主価値拡大に貢献する案件に絞り込んだ成長投資や株主還元を通じた自己資本のコントロール、適切な範囲の財務レバレッジ**（ネットD/E 0.3~0.5を目安にコントロール）により、資本効率を改善していきます。

1. ベンチマーク各社の石油・天然ガス生産量（石油換算）の凡その成長率（2015年~2024年）を示したものの
2. ベンチマーク各社の凡その数値のレンジを示したもの（当社数値は2024年の実績値、当社以外は2023年の実績値）

'25～'27中計

主要経営指標の目標値

プロジェクトの安全で安定な操業を継続し、確かな収益基盤を維持します。
 アバディをはじめとした複数のプロジェクトを中計期間中にFIDし、'30年代の飛躍のための足場固めを行います。
 持続的に株主還元を強化するとともに、事業の進捗状況をタイムリーかつ積極的に開示します。

指標	中計期間中の目標
重大な事故 ¹	ゼロ
株主還元	中期経営計画期間中（2025～2027年）は90円を起点とした累進配当を実施 総還元性向 ² 50%以上を目指す
3年間累計の営業CF	22,000億円以上 ※油価 \$70/bbl、為替レート 135円/USDの前提
GHG排出原単位 ³	2027年に2019年比で35%削減を達成
ROE	株主資本コストを上回ることを目指す
ROIC	WACCを上回ることを目指す

1. オペレータープロジェクトにおける、死亡事故、重篤負傷、重大漏洩（PSE Tier 1）

2. 配当支払額と自己株式取得予定額の合計金額÷当期利益

3. Scope 1+2

目の前に立ちはだかる世界規模の課題。
私たちは地球の力でエネルギーを創る、
チームの力を結集する、経験と新しい発想で知恵を出し合う。
絶対に使命を投げ出したりしない。
私たちはエネルギーを探し、届け続ける。
今日も明日もこれからも、ずっと。

地球の力で未来へ挑む

INPEX

Energy for a brighter future

ご清聴ありがとうございました。



<https://www.inpex.com>

当社ウェブサイトには投資家様向けを含む様々な情報を掲載しております。
ぜひご覧ください。



INPEX TOPICS

